

組合士さん

こんにちは

訪ねた組合士

東京都中央卸売市場

運輸協同組合

事務局 今川 和子さん

資格取得で“絆”が強まりました

“築地”に生鮮食品を運ぶ伝統の組合

東京都中央卸売市場運輸協同組合は、昭和44年に設立された伝統ある組合である。東京都中央卸売市場、いわゆる築地市場関係の生鮮食品等の輸送を主要業務とする運送業者で構成され、現在は組合員14社の小規模ながらまとまりの良い組合である。時代の変化もあり、ピーク時に比べると組合員数は漸減傾向というが、今年新たに1社が加入するなど、組合の新陳代謝力は健在である。組合員各社の規模は千差万別だが、多様な組合員がみな有効に活用でき、満足できるような事業展開、サービス提供を行ってきている。

堅実な組合事業を運営中

特に組合員から好評なのは、高速道路の大口多頻度利用制度を活用した高速料金後納事業と燃料共同購買事業、それにタイヤ、バッテリーなど長距離運送が当たり前の組合員には必需のカー用品の共同購買事業である。これらの事業を始め、組合運営の実務を一手にこなしているの

が、同組合事務局の今川和子さんである。高速料金後納事業は、組合の事業運営のための有力な原資確保源であるが、組合員へのできるだけの還元も目指しているため、「原資確保と言っても、組合運営費が最低限確保できる程度」と今川さんは苦笑する。

燃料共同購買事業は、現在は東京都トラック運送事業協同組合連合会のとりまじめに参加し、組合員への割安な燃料提供を行っている。参加以前は組合単独の「まとまった交渉力」で燃料業者との価格交渉に臨んでいたが、今川さんはそのタフな交渉にも当たっていた。「連合会のとりまじめに参加してからはそういう面ではとても楽になった」と言う。その一方で、組合として保証金制度を用意し、万一のときの危機管理に心を砕いている。

一念発起で組合士資格にトライ

今川さんは、同組合事務局に勤続して20年以上という大ベテラン職員である。仕事のスタンスは「公正、公明であること」を心がけているという。しかし、このようなモットーは日常業務で目に見え

る形では現れにくく、したがって評価されることも少ない。ましてベテラン職員ゆえにスムーズに業務をこなしても、組合員各社も、そして今川さん自身も「当たり前」になっていたという。

しかし、そんな中で今川さんは「考えてみると、勤続年数が長いだけ。これというものは持っていない」と気づいたという。それならば、「組合の仕事をきちんと勉強し直そう。組合のために事業を運営しているのだときちんと伝えられる専門知識を身につけよう」と決意し、東京都中央会が実施していた20回に渡る夜間講習会を受講した。今川さんにとって予定外だったのは、講習会が組合検定試験の受験を前提としていたことだった。

「それならトライしてみよう」と持ち前のチャレンジ精神とガッツが頭をもたげた今川さんは「とても一度にすべてをクリアするのは無理だから」と、1科目ずつ確実にクリアして、平成18年、ついに組合士資格を取得、認定証の交付を受けた。認定証を見せ、受験者数に対する合格者数を知らせると、「組合士ってすごい資格なんだね」と理事等も認めてくれ

たとのこと。結果として待遇改善にも繋がるといふ資格取得効果があったという。

資格取得で広がるネットワーク

むろん、資格取得の効果はこれだけに止まらない。今川さんがまず指摘するのは講習受講仲間との繋がりにある。特に一緒に受験して組合士となった女性とは今でも連絡を取って情報交換をする独自の組合士ネットワークを作っている。さらに、講習会での勉強や受験で励ましてくれた都中央会職員には今でも感謝していると同時に、中央会がいつそう身近に感じられ、組合運営について相談したり助言を受けるといふ情報ネットワークができたことも効果の1つだという。

「勉強を通じて仕事の仕方の整理が付いたし、自分の仕事のやり方の確認にもなりました」と資格取得へ向けた勉強の効果を振り返る今川さんは、資格を取得した今、「そのことを誇りに思うし、自信にもなっている」と同時に、「だからこそ、これからも組合の健全な運営にこれまで以上に取り組んでいきたい」と意気込みを語ってくれた。きつた。

